

PC 300PL (Type 6862/6892)

SA88-6578-00

初期導入済ソフトウェアについて  
**(Windows NT 4.0 モデル)**







PC 300PL (Type 6862/6892)

SA88-6578-00

初期導入済ソフトウェアについて  
**(Windows NT 4.0 モデル)**

— お願い —

本書の情報および、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず51ページの付録B、『ライセンス情報』および 55ページの付録C、『特記事項および商標』をお読みください。

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

原典： 06J0848  
IBM Personal Computer  
About Your Software  
Windows NT Workstation 4.0, Applications,  
and Support Software  
発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社  
担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1998.9

©Copyright International Business Machines Corporation 1998. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1998

---

本書について .....	v
第1章 ソフトウェアの概説 .....	1
導入済みソフトウェア .....	1
すぐに導入できるソフトウェア .....	2
第2章 始動 .....	5
本製品の初めての始動 .....	5
始動する前に必要なこと .....	5
Windows NT セットアップ・プログラムの実行 .....	6
デスクトップ・アプリケーションの使用方法 .....	7
IBM ウェルカム・センターの使用方法 .....	9
IBM ウェルカム・センターの使用方法 .....	10
アプリケーション導入プログラムの使用方法 .....	11
オンライン・ブックの表示 .....	12
本製品の終了方法 .....	12
第3章 システム管理アプリケーション .....	15
Norton AntiVirus for IBM .....	15
ConfigSafe NT .....	16
IBM System Management Tools .....	18
IBM System Management Tools の構成要素 .....	19
IBM System Management Tools の導入 .....	21
第4章 他のオペレーティング・システムの導入 .....	23
第5章 <b>Windows NT</b> の再導入 .....	25
Windows NT 4.0 CD について .....	25
Windows NT 4.0 の再導入に関する重要情報 .....	25
第6章 サポート <b>CD</b> の使用方法 .....	27
CD の機能 .....	27
CD の始動 .....	28
第7章 診断プログラムの使用方法 .....	31
Enhanced Diagnostics .....	31

付録A. Windows NT 4.0 の詳細導入手順 .....	33
A. Windows NT 4.0 のインストール .....	33
B. ドライバーのインストール .....	38
B - 1. バスマスター IDE のドライバーの導入 .....	38
B - 2. IBM 100/10 EtherJet PCI アダプター・ドライバーの導入 .....	40
B - 3. Cirrus Logic CrystalClear Audio ドライバーの導入 ...	42
B - 4. Logitech ScrollPoint Mouse のドライバーの導入 .....	44
C. Windows NT Service Pack 3 のインストール .....	45
D. ビデオのドライバーの導入 .....	46
E. Windows NT 4.0 Service Pack 3 以降に修正されたモジュール のダウンロード .....	48
F. 同梱アプリケーションのインストール .....	48
付録B. ライセンス情報 .....	51
プログラム名 .....	51
追加条件 .....	51
プログラム・サービス .....	52
保証 .....	52
その他 .....	52
その他の追加条件 .....	52
付録C. 特記事項および商標 .....	55
特記事項 .....	55
商標 .....	55

本書では、ユーザーのコンピューター資料の情報を補足します。今後参照するときのために、本書は他のコンピューター資料と一緒に保管しておいてください。

本書には、導入済みソフトウェアおよび本製品に付属しているその他のソフトウェアについての一般情報が記載されています。

本書は次のように編成されています。

- 第1章、『ソフトウェアの概説』には、ご使用のコンピューターにすでに導入されているソフトウェアおよび導入可能ソフトウェアに関する概略が記載されています。
- 第2章、『始動』には、コンピューターを使用して操作を開始し、ソフトウェア機能の一部を理解する上で役立つ情報が記載されています。
- 第3章、『システム管理アプリケーション』には、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM System Management Tools の導入および使用方法に関する情報が含まれています。
- 第4章、『他のオペレーティング・システムの導入』には、他のオペレーティング・システムやサポート・ソフトウェアの導入についての情報が記載されています。
- 第5章、『Windows NT の再導入』には、回復目的のために Windows NTワークステーション 4.0 を再インストールするときの情報が含まれています。
- 第6章、『サポート CD の使用方法』には、サポート CD で提供されるソフトウェアの導入または再導入についての情報が記載されています。
- 第7章、『診断プログラムの使用方法』には、本製品に付属の診断プログラム IBM Enhanced Diagnostic と [hdref page=no refid=apc](#) には、Windows NT 4.0 の再導入手順がステップごとに詳細に記載されています。
- 付録B、『ライセンス情報』には、ソフトウェア・ライセンスについての情報が記載されています。
- 付録C、『特記事項および商標』には、特記事項と商標の情報が記載されています。





本製品には、Microsoft Windows NT Workstation バージョン 4.0<sup>1</sup>、アプリケーション・プログラム、診断ツール、デバイス・ドライバなど、さまざまなソフトウェアが付属しています。これらのソフトウェアには、**初期導入** されているものと、**導入可能** なものがあります。これらのソフトウェアは、本製品に付属の「IBM プログラムのご使用条件」および本書の付録Bに記載の「ライセンス情報」によって、ライセンスを受けています。

## 導入済みソフトウェア

Windows NT 以外に、下記のソフトウェアが初期導入されています。

- IBM ウェルカム・センター。ハード・ディスク区画の設定、IBM によって提供されるソフトウェアの導入、日付および時刻の設定、プリンターのセットアップ、オンライン・ブックの表示、サポート CD の起動、および IBM 製品ならびに技術サポート情報の入手を行うことができます。
- 出荷時導入済みハードウェア用のデバイス・ドライバ
- サービス・パック 3。Microsoft から Windows ユーザーに提供される Windows NT アップデート。サービス・パック 3 は IBM によってハード・ディスク上にすでに導入されています。この導入済みソフトウェアに関する詳しいことは、8ページを参照してください。

導入済みソフトウェアについての情報は、5ページの第2章、『始動』に記載されています。

### 重要:

1. 導入済みソフトウェアのバックアップ・ディスクは、本製品には付属していません。ただし、サポート CD には IBM 導入済みプログラムとデバイス・ドライバのほとんどが入っています。

さらに、Windows NT オペレーティング・システム (Microsoft 社提供のもので、IBM によって変更されていない) が、バックアップ用に別の CD で提供されています。この CD は、コンピューターに導入済み

---

<sup>1</sup> Microsoft Certificate of Authenticity は、本製品の Windows NT ソフトウェアが Microsoft 社から法的にライセンスを受けていることを保証するものです。

の更新済みデバイス・ドライバーや、その他のソフトウェアは含んでいません。オペレーティング・システムを再導入する必要がある場合は、*Microsoft Windows NT Workstation 4.0* の CD および NT の Setup Disk 3 枚を サポート CD とともに使用します。(Windows NT オペレーティング・システムと導入済みソフトウェアのディスクセットは、IBM から入手することはできません。) Windows NT およびサービス・パック 3 の再導入に関する詳しいことは、25ページの第5章、『Windows NT の再導入』を参照してください。

2. ユーザーのハード・ディスクは 2 GB<sup>2</sup> の区画 (ドライブ C と呼ばれる) が設定されています。この区画には、Windows NT およびその他の導入済みソフトウェアが入っています。残りのハード・ディスク・スペースはフォーマットされていないので、必要に応じてフォーマットし、区画を設定することができます。(残りのハード・ディスク・スペースは区画設定を行わないと使用できません。) ディスク管理機能が IBM ウェルカム・センターに提供されており、“始動”の章の注 4 (6ページ) に解説が掲載されています。
3. できるだけ早く、以下のディスクセットを作成してください。
  - a. *Microsoft Windows NT 修復ディスクセット*。このディスクセットは、回復作業のために使用します。(このディスクセットの作成方法については、コンピューターに付属の Windows NT のマニュアルを参照してください。)
  - b. *IBM Enhanced Diagnostic ディスクセット*。このブート可能なディスクセットを使用すれば、コンピューターに関する問題を識別するために使用することができます。(ディスクセットの作成手順については、31ページの第7章、『診断プログラムの使用方法』を参照してください。)

## すぐに導入できるソフトウェア

IBM 事前導入済みプログラムおよびデバイス・ドライバーに加えて、すぐに導入可能なその他のソフトウェアが サポート CD または、ハード・ディス

---

<sup>2</sup> ハード・ディスクの容量について述べるとき、GB は 1 000 000 000 バイトを意味し、ユーザーによるアクセス可能な合計容量は操作環境によって変わります。

ク、あるいはその両方に提供されています。必要に応じて、どのプログラムを導入するかを決めてください。

注:

1. Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、IBM System Management Tools の各導入可能ソフトウェアは、ハード・ディスクおよび サポート CD にあります。最初の 3 つの製品のハード・ディスクからの導入手順については 11ページの『アプリケーション導入プログラムの使用方法』を、製品の説明については 15ページの第3章、『システム管理アプリケーション』を参照してください。
2. Internet Explorer 4.0 は、すぐに導入可能な状態でハード・ディスク上にあります。ご使用の Windows NT オペレーティング・システムには Microsoft Internet Explorer 3.02 が標準装備されていますが、デスクトップ上にはバージョン 4.0x も提供されており、必要に応じてこのアップデート版を容易にインストールすることができます。この製品に関する説明、およびデスクトップからの導入方法については、8 ページを参照してください。
3. 以下は、サポート CD に収録されている Windows NT 4.0 用のソフトウェアの一部です。実際に CD に入っているソフトウェアは変更されることがあり、このリストと異なる場合があります。他のオペレーティング・システム (オペレーティング・システムについては 23ページを参照) 用の同様のソフトウェアもいくつか CD に入っています。この CD に関する詳細については、27ページの第6章、『サポート CD の使用方法』を参照してください。

#### **CoSession**

IBM 技術員または組織内の管理者がリモート側からコンピューターの問題の診断および修正を行うことを可能とする通信ツール。接続はモデムまたは LAN を介して行うことができます。

#### **IBM インターネット接続サービス (ネットパスポート)**

このソフトウェアを使用すれば、IBM Global Network を通じてワールド・ワイド・ウェブに接続できます。このソフトウェアを導入すると、Netscape Navigator ブラウザーも導入できます。

## **IBM Netfinity Services**

本製品のハードウェアおよびソフトウェアに関する詳細な情報の表示、デスクトップ管理インターフェース (DMI) 情報のブラウズ、さまざまなシステム資源のモニター、および資産機密保護の管理を行なうためのソフトウェアです。本製品が、Netfinity Manager の導入されているネットワークに接続されている場合には、Netfinity Manager は資産管理のために情報を収集し、本製品の操作をモニターすることができます。

本章には、本製品を始動する上で役立つ情報が記載されています。ここでは、次のことを説明します。

- 最初に本製品を始動する前に、何が必要で、始動の後に何が起こるか
- 以下の内容について
  - Windows NT セットアップ・ブート・ディスクットの作成方法
  - デスクトップ・アプリケーションへのアクセスおよび使用方法
  - IBM ウェルカム・センター (Windows NT デスクトップ上の **IBM** ウェルカム・センター・アイコン) からの情報へのアクセスおよびタスク実行方法。
  - アプリケーション導入プログラムの使用方法
  - オンライン・ブックの表示方法。
  - 本製品を安全に終了する方法。

### 本製品の初めての始動

Windows NT に初めてアクセスするときは、その前に Windows NT のセットアップ手順を完了する必要があります。

#### 重要

コンピューターをはじめて始動したときは、セットアップ手順を完了するまではコンピューターの電源を切らないでください。電源を切った場合、予期しない結果が生じる可能性があります。

### 始動する前に必要なこと

Windows NT のセットアップ手順を開始する前に、以下のものが必要になります。

- コンピューターに付属の Windows NT のマニュアル (本章に記載されている情報よりも詳細な情報が必要な場合)
- Microsoft 社 Certificate of Authenticity (Windows NT のマニュアルの表紙に貼られている) のプロダクト ID 番号
- ネットワーク管理者からのネットワーク情報 (該当する場合)。

- プリンターを本製品に直接接続する場合には、プリンターのモデルおよびプリンターが使用するポート。

## Windows NT セットアップ・プログラムの実行

「セットアップ」プログラムをまだ実行していない場合には、本製品の始動時に実行されます。このプログラムは、必要に応じて、情報の選択や入力を求めるプロンプトを表示します。以下の注に記載されている情報よりも詳細な情報が必要な場合は、Windows NT のマニュアルを参照してください。

注:

1. コンピューターの始動時に実行されるセットアップ・プログラムは、Windows NT のマニュアルに記載されているものとは少し異なります。Windows NT のマニュアルに記載されている選択項目のいくつかは、事前に設定済みなので表示されません。
2. セットアップ手順中で、Windows NT のライセンス条項を受諾することを示すために、プロンプトに対して、Certificate of Authenticity のプロダクト ID 番号を入力する必要があります。Certificate of Authenticity は、Windows NT のマニュアルの表紙に添付されています。  
  
ネットワーク・アダプターの選択画面が表示されたら検索開始ボタンを押し、検出されたアダプターをインストールします。アダプターの導入中にダイアログ "PCI Configuration Notification" が表示されますが **OK** を押して先に進んでください。"Adapter Properties" でも **OK** を押します。その他のネットワーク関係の設定は「ネットワーク管理者からのネットワーク情報」を参照してください。
3. セットアップ手順が完了してシステムが再始動したら、プロンプトの表示に続き、**Ctrl+Alt+Del** を押してログオン・ウィンドウを表示します。ログオン手順が完了すると、Windows NT デスクトップが表示されます。Microsoft Internet Explorer 4.0x を導入してある場合は (8 ページを参照)、Internet Explorer ウィンドウがデスクトップ上に表示されます。
4. ユーザーのハード・ディスクは、2 GB の区画 (ドライブ C と呼ばれる) を持っています。この区画には、Windows NT およびその他の導入済みソフトウェアが入っています。残りのハード・ディスク・スペースはフォーマットされていないので、必要に応じてフォーマットし、区画を

設定することができます。(残りのディスク・スペースは区画設定を行わないと使用できません。)

ディスク管理ツールは IBM ウェルカム・センターからも呼び出すことができます。ウェルカム・センターへのアクセスについては、9ページの『IBM ウェルカム・センターの使用法』を参照してください。残りのディスク・スペースを設定するツールにアクセスするには次のようにします。IBM ウェルカム・センター・ウィンドウで 始めに をクリックし、次に ハードディスクのパーティションのセットアップ までスクロールしてクリックします。

ハード・ディスクは複数の論理ドライブ (C:、D:、および E: など) に分割 (区画化) することができます。別のオペレーティング・システムをインストールしたい場合は、別の基本 (ブート可能) 区画にインストールすることができます。拡張区画からはブートできません。

5. できるだけ早く、Windows NT の修復ディスクセットを作成してください。このディスクセットは、回復作業用に使用されるものなので、必ず作成します。ご使用のコンピューターに機構を追加した場合は、新しい修復ディスクセットを作成して、ディスクセットが現在のシステム構成を反映するようにします。ディスクセットの作成と使用についての追加情報は、Windows NT のマニュアルに記載されています。

## デスクトップ・アプリケーションの使用法

ご使用のコンピューターには、Windows NT の提供する標準デスクトップ・プログラムが付属しており、それらはマイ・コンピューター、インターネット、ネットワーク・コンピューター、受信トレイ、ごみ箱、およびプリーフケースです。これらのアプリケーションについては、ご使用のコンピューターに付属の Windows NT マニュアルを参照してください。

さらに、Windows スタート・ボタンを使用してアクセスすることのできる標準 Windows NT プログラムが付属しています。これらのプログラムにアクセスするには、スタート・ボタンをクリックし、次にプログラムを選択します。これで、アクセサリ、インターネット・エクスプローラ、コマンド・プロンプト、Windows NT エクスプローラ、管理ツール、スタートアップ、および IBM ウェルカム・センターの各項目にアクセスすることができます。

さらに、本製品にはデスクトップ上に Windows NT オペレーティング・システムの拡張機能および便利なアプリケーションが IBM によって提供されています。これらの拡張機能およびプログラムについて以下に説明します。

- サービス・パック 3。Microsoft 社から Windows NT ユーザーに提供される Windows NT アップデート。サービス・パック 3 はハード・ディスク上に IBM によって事前に導入されています。

— 重要 —

導入済みのサービス・パック 3 に影響を及ぼさずにデバイス・ドライバーを導入するには、ドライブ C 上の I386 ディレクトリーからデバイス・ドライバーをインストールする必要があります。ドライブ C 上の I386 以外のディレクトリーまたは装置からデバイス・ドライバーを導入すると、デバイス・ドライバーの導入後にサービス・パック 3 を再導入しなければなりません。

サービス・パック 3 を再導入するには、デスクトップ上の **Service Pack 3** アイコンをダブル・クリックします。

- Internet Explorer 4.0x は、Internet Explorer のアップデート版で、すぐにインストールすることができます。Internet Explorer により、ユーザーの所属する企業内のイントラネットまたはワールド・ワイド・ウェブ上の情報を容易に検索することができます。(Microsoft 社は本製品に事前導入されている Windows NT オペレーティング・システムとともに Internet Explorer 3.02 を提供しています。IBM は Microsoft 社の Internet Explorer 4.0x をすぐにインストールできる形で提供しており、いつでもデスクトップから容易にインストールすることができます。)

— 注意 —

インストールはアドミニストレータ権限をお持ちの方が行ってください。

Internet Explorer 4.0x をインストールするには、デスクトップ上の **IE4** セットアップ・アイコンをダブル・クリックします。画面の指示に従ってください。バージョン 4.0x をインストールすると、デスクトップ画面の右側にチャンネル・バーが現れます。



注: Internet Explorer を使用するためには、ご使用のコンピューターがユーザーの所属する企業のイントラネットまたはワールド・ワイド・ウェブ (あるいはこれらの両方) に接続されている必要があります。ワールド・ワイド・ウェブへの接続方法、ならびに Internet Explorer ツールの詳細については、本製品に付属の Microsoft Windows NT のマニュアルを参照してください。

Windows NT の再導入が必要となった場合には、Internet Explorer 4.0x の再導入に関して25ページの第5章、『Windows NT の再導入』を参照してください。

画面上のデスクトップには、「IBM ウェルカム・センター」プログラムも提供されています。このプログラムの詳しいことについては、『IBM ウェルカム・センターの使用法』を参照してください。

## IBM ウェルカム・センターの使用法

IBM ウェルカム・センターは、以下のことを行うための中心となる場所です。

- ハード・ディスクの区画の設定
- ハード・ディスク上にある、以下に示されているすぐに導入可能なソフトウェアの導入
  - Norton AntiVirus for IBM
  - ConfigSafe
  - IBM System Management Tools
- 以下のようなセットアップ作業の実行
  - 時刻および日付の設定
  - プリンターのセットアップ
  - ワークスペースの調整についての情報の表示

- 以下のようなオンライン・ブックの表示
  - *IBM Personal Computer 解説書*
  - *Netfinity ユーザーズ・ガイド*
  - *Netfinity (Netware 版) ユーザーズ・ガイド*
  - *Netfinity インストールから始動まで*
- サポート CD を始動し、追加ソフトウェア(2ページの『すぐに導入できるソフトウェア』にリストされているものなど)を導入する
- ご使用のコンピューターがワールド・ワイド・ウェブと接続可能な場合は、ワールド・ワイド・ウェブ上の IBM ウェブ・ページ (IBM 製品および技術サポートに関する情報があります) にアクセスしてください。

## IBM ウェルカム・センターの使用方法

IBM ウェルカム・センターにアクセスするには、以下のことを行います。

1. Welcome to Windows NT (Windows NT へようこそ) ウィンドウがオープンしていたら、クローズします。
2. **IBM ウェルカム・センター・アイコン**をダブル・クリックします。  
IBM ウェルカム・センターが表示されます。
3. IBM ウェルカム・センターを使用して操作を実行したり情報を入手したりするには、一般に次の手順を実行します。
  - a. メイン・ウィンドウの左側にリストされている、以下のカテゴリーのいずれかをクリックします。
    - ようこそ
    - 始動
    - オンライン・ライブラリー
    - システムのカスタマイズ
    - IBM サービスのご案内メイン・ウィンドウに、カテゴリーごとの情報が表示されます。
  - b. メイン・ウィンドウで、選択可能なトピックまでスクロールしてクリックします。(選択可能なトピックは強調表示され、下線が引かれています。) 必要に応じ、画面に表示された指示に従います。

本章の残りの部分では、IBM ウェルカム・センターから行う具体的な処理について説明します。

注: IBM ウェルカム・センターの一番上にある Microsoft Internet Explorer ツールバーの使用法については、Windows NT マニュアルまたはオンライン・ヘルプを参照してください。

## アプリケーション導入プログラムの使用方法

ハード・ディスクに導入済みのアプリケーション導入プログラムを使用して、以下のことを実行できます。

- Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM System Management Tools を導入する
- ハード・ディスクからアプリケーション導入プログラムを削除する
- Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、IBM System Management Tools プログラムに関する情報を表示する

注: アプリケーション導入プログラムは、サポート CD 上で使用することもできます。サポート CD の使用方法については、27ページの第6章、『サポート CD の使用方法』を参照してください。

導入済みのアプリケーション導入プログラムを使用するには、次の手順を実行します。

1. Welcome to Windows NT (Windows NT へようこそ) ウィンドウがオープンしていたら、クローズします。
2. **IBM** ウェルカム・センター・アイコンをダブル・クリックします。
3. IBM ウェルカム・センター・ウィンドウで、始めにをクリックします。
4. 追加ソフトウェアの導入 セクションのアプリケーション導入プログラムの起動までスクロールしてクリックします。
5. アプリケーション導入プログラムのメニューが表示されたら、以下のうち該当するボタンをクリックします。
  - a. アプリケーションの導入を使用して、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、または IBM System Management Tools の導入を行います。

3つのアプリケーションの詳細については、15ページの第3章、『システム管理アプリケーション』を参照してください。

- b. ハード・ディスクからこのユーティリティー・プログラムを削除は、ハード・ディスクからアプリケーション導入プログラムを削除します。
- c. 内容の説明は、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、IBM System Management Tools プログラムに関する情報を表示します。

6. 操作を完了するには、適当な選択をして画面の指示に従います。

## オンライン・ブックの表示

IBM ウェルカム・センター から、解説書などのオンライン・ブックにアクセスできます。オンライン・ブックにアクセスするには、次の手順を実行してください。

1. Welcome to Windows NT (Windows NT へようこそ) ウィンドウがオープンしていたら、クローズします。
2. **IBM** ウェルカム・センター・アイコンをダブル・クリックします。
3. IBM ウェルカム・センター・ウィンドウで、オンライン・ライブラリーをクリックし、次に表示したいブックの名前までスクロールしてクリックします。

## 本製品の終了方法

保存していないデータを失ったり、プログラムに損傷を与えたりすることのないように、コンピューターの電源を切る前には、必ず終了手順を実行してください。

コンピューターを終了するには、次の手順を実行します。

1. 作業中のデータを保存します。
2. オープンしているアプリケーションをすべてクローズします。
3. Windows スタート・ボタンをクリックします。
4. シャットダウンをクリックし、はい (**Y**) をクリックします。

あるいは

1. 作業中のデータを保存します。
2. オープンしているアプリケーションをすべてクローズします。
3. **Ctrl+Alt+Del** を押して、Windows NT セキュリティー・メニューを表示します。
4. シャットダウン (終了) をクリックして、次に **OK** をクリックします。



ここでは、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe NT、および IBM System Management Tools の各ソフトウェアに関する情報が記載されています。

その他のソフトウェアは、サポート CD で提供されています。詳細については、27ページの第6章、『サポート CD の使用方法』を参照してください。診断ソフトウェアについては、31ページの第7章、『診断プログラムの使用方法』を参照してください。

### Norton AntiVirus for IBM

Norton AntiVirus for IBM プログラムは、コンピューターからウィルスを検出して除去する包括的なアンチウィルス製品です。Norton AntiVirus for IBM プログラムを導入するには、次の手順を実行します。

1. Welcome to Windows NT (Windows NT へようこそ) ウィンドウがオープンしていたら、クローズします。
2. **IBM** ウェルカム・センター・アイコンをダブル・クリックします。
3. IBM ウェルカム・センター・ウィンドウで、始めにををクリックします。
4. 追加ソフトウェアの導入 セクションのアプリケーション導入プログラムの起動までスクロールしてクリックします。
5. アプリケーション導入プログラムのメニューが表示されたら、アプリケーションの導入ボタンをクリックします。導入の選択ウィンドウで、**Norton AntiVirus for IBM** をクリックして強調表示します。
6. 追加ボタンをクリックしてタイトルを右側のパネルに移動します。その後 導入ボタンをクリックします。

このプログラムを導入した後に、現在の設定の変更または表示を行いたい場合には、次の手順を実行します。

1. Windows スタート・ボタンをクリックします。
2. プログラム、**Norton AntiVirus** を選択し、**Norton AntiVirus** をクリックします。
3. Norton AntiVirus ウィンドウにおいてオプションをクリックします。

4. 画面上部のタブをクリックし、設定を確認し、必要なら変更します。変更した設定を保存するには、各ウィンドウで「OK」をクリックします。
5. Norton AntiVirus メイン・メニューに戻り、スケジューラ をクリックします。設定を確認し、必要なら変更します。
6. 何らかの変更を行った場合でそれを保管したいときは、「OK」ボタンをクリックします。

サポート文書はオンラインで提供されています。この資料にアクセスするには、Windows のスタート・ボタンをクリックします。次にプログラム、Norton AntiVirus、Norton AntiVirus マニュアル、リファレンス・ガイドまたはユーザーズ・ガイドを選択します。(事前に Adobe Acrobat を導入する必要があります。)

## ConfigSafe NT

ConfigSafe プログラムは、Windows NT 用の、包括的なシステム構成情報の記録および回復ツールです。このプログラムは、デスクトップが損傷したり、使用不能になったりした場合に、ユーザー (またはサポート担当者) がシステムを簡単に復元できるようにする機能を提供します。

ConfigSafe プログラムの特長には、以下のものがあります。

- メニュー方式のグラフィカル・インターフェース。
- スナップショット機能。この機能は、システム構成情報を自動的に取り込み、通常のスケジュールに保存します。収集および保管される情報には、システム・ファイル、ハードウェア構成、ファイル・バージョン、ネットワーク接続、およびレジストリー情報が含まれます。
- 構成復元機能。この機能により、ほんの数秒間で、システムを直前の (または出荷時導入) 構成へ復元することができます。
- UNDO 機能。この機能を使用すると、最後に復元された変更を取り消して、直前の構成に戻ることができます。
- 基本システム構成に対して (故意にまたは無意識で) 行われた変更の自動追跡。



- レポート機能。この機能を使用すると、システム構成変更に関する即時レポートを生成する（その後、表示または印刷する）ことができます。レポートは、最後の 1 週間で、あるいは出荷時導入済み構成の後で発生した変更のリストといった、重要情報を提供することができます。これらのレポートは、システムの障害追及を行う際に役立ち、また問題解決の際に役立つように、サポート担当が表示したり、ファクシミリで送ることができます。
- リモート・アシスタンスを得るための、他のプログラム (CoSession など) との併用機能。(CoSession に関しては、3 ページを参照してください。)
- 構成情報のバックアップやデータ収集といった、時間のかかる作業の自動実行。
- ハードウェアまたはソフトウェアの変更に先立って現行のシステム設定を簡単に取り込む方法 (ポイントしてクリック)。これにより、変更が行われたときに問題が発生した場合に、即時に回復する手段が提供されます。
- 特定のニーズを満足させる、カスタマイズ可能な機能。

ConfigSafe は、特に、新しいアプリケーションまたはアダプターの導入後に問題が発生した場合に、貴重な障害追及ツールとなります。システム構成を変更する前に、ConfigSafe を使用して現在の作業環境のスナップショットを取ってください。こうしておくことで、構成ファイルでの変更によりコンピューターが使用不能になった場合にその構成に容易に戻ることができます。

ご自分で問題を解決できず、システム管理者の援助が必要な場合には、システム管理者に連絡する前に、ConfigSafe を使用して、構成の最新の変更に関するレポートを作成してください。システム管理者は、このレポートに記載された情報を使って、ユーザーが問題を解決できるよう援助します。

ConfigSafe プログラムを導入するには、以下の手順を実行します。

1. Welcome to Windows NT (Windows NT へようこそ) ウィンドウがオープンしていたら、クローズします。
2. **IBM** ウェルカム・センター・アイコンをダブル・クリックします。
3. IBM ウェルカム・センター・ウィンドウで、始めにををクリックします。

4. 追加ソフトウェアの導入 セクションのアプリケーション導入プログラムの起動までスクロールしてクリックします。
5. アプリケーション導入プログラムのメニューが表示されたら、アプリケーションの導入ボタンをクリックします。導入の選択 ウィンドウで、**ConfigSafe NT** をクリックして強調表示します。
6. 追加ボタンをクリックしてタイトルを右側のパネルに移動します。その後 導入ボタンをクリックします。

導入が終わってからプログラムにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. Windows スタート・ボタンをクリックします。
2. プログラム、**ConfigSafe** を順に選択してから、**CONFIGSAFE** をクリックします。

サポート資料が、オンライン・ヘルプに組み込まれています。 オンライン・ヘルプにアクセスするには、Windows のスタート・ボタンをクリックします。次に、プログラム、**ConfigSafe** を選択します。

## IBM System Management Tools

IBM System Management Tools は、以下の構成要素から構成されます。

- Desktop Management Interface (DMI) Service Provider 2.0
- Desktop Management (DM) BIOS 2.0 Instrumentation
- IBM PC System Monitor Instrumentation
- IBM AssetCare
- IBM Alert on LAN
- IBM SMART Reaction Client
- Intel® LANDesk® Client Manager 3.1

IBM System Management Tools を導入すると、すべての構成要素が導入されます。Intel LANDesk Client Manager および IBM SMART Reaction Client はオプションで含めることもまた除外することもできます。

注: IBM Alert on LAN は、ハードウェア・サポートを必要とします。この機能は一部のモデルのみがサポートしています。

## IBM System Management Tools の構成要素

IBM System Management Tools の各構成要素について以下に説明します。

DMI Service Provider 2.0 は、デスクトップ・コンピュータのソフトウェアおよびハードウェア製品から情報を集め、管理するプログラムです。デスクトップ・コンピュータは、独立型のものも、ネットワークにリンクされているものも管理できます。各 DMI 適合構成要素は、その情報を DMI Service Provider に登録し、その情報は Management Information Format (MIF) データベースに保管されます。DMI Service Provider は、管理アプリケーション (Intel LANDesk Client Manager など) からの要求およびその他のコマンドを処理し、要求された情報を MIF データベースから検索したり、あるいは必要に応じてその要求を DMI 適合型製品に渡します。サポート資料は DMI Browser のヘルプ資料に組み込まれています。

DM BIOS 2.0 Instrumentation は、いったんコンピュータが稼働するとアクセスが困難となるハードウェア情報を収集します。DM BIOS Instrumentation は、コンピュータ BIOS から情報を検索し、この情報は DMI Browser を使って見ることができます。報告されるハードウェア情報には、メモリー構成、キャッシュ・サイズ、USB サポート、製品番号、システムのシリアル番号、BIOS バージョン、マイクロプロセッサ情報、システムのスロット情報などが含まれます。

IBM PC System Monitor Instrumentation は、システム・ボードの温度、システム電圧、およびファン速度を監視します。またコンピュータ・カバーの取り外しについても検出します。データは DMI Service Provider に報告され、これには DMI Browser あるいは DMI 互換型システム管理ソフトウェアを使ってアクセスすることができます。IBM Netfinity Services または Intel LANDesk Client Manager などのシステム管理ソフトウェアを使用して、問題発生時にユーザーまたはシステム管理者に警報を送ることができます。

IBM AssetCare は、ご使用のコンピュータ内の Enhanced Asset Information Area の構成およびデータの検索を行うアプリケーションです。Enhanced Asset Information Area は、構成要素の追跡および盗難検出機能を提供する EEPROM です。IBM AssetCare は、主要システム構成要素のシリアル番号をはじめ、リース、保証、およびユーザーおよびシステ

ム情報の追跡を可能とします。DMI 互換型ネットワーク管理ソフトウェアを使用して、カスタム化された情報のスペースを提供するパーソナル・データ・フィールドを作成することも、IBM AssetCare を使用して行うことができます。IBM AssetCare が構成の変更を検出すると、DMI 互換型警報を出します。さらに、ワイヤレス読取装置を使用して、IBM AssetCare が提供するコンピューターに関する情報にアクセスすることができます。

IBM Alert on LAN は、一部のモデルに付属する Alert on LAN ハードウェアを構成し、監視します。IBM Alert on LAN を使用して、自己診断テスト (POST)、オペレーティング・システムの問題、環境問題 (高システム温度およびシステム電圧変動など) および一部の機密保護違反 (コンピューター・カバーの取り外しなど) について LAN 管理者に通知することができます。Wake on LAN と同様、IBM Alert on LAN は、コンピューターの電源がオフのときでも機能します。管理者は、IBM Netfinity Manager 5.10.3 または Intel LANDesk Client Manager Administrator 3.3 などのシステム管理ソフトウェアを使用して、IBM Alert on LAN を監視することができます。

IBM SMART Reaction Client は、Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (SMART) ハード・ディスクを備えたコンピューター上のデータを保護するためのプログラムです。SMART はハード・ディスクの状態を監視し、ドライブ内に障害の可能性がある場合は、予測的障害分析 (PFA) 警報を生成します。IBM SMART Reaction Client はこれらの警報を処理し、それらに対する対応策を行います (クライアント・ワークステーション上での画面メッセージの表示や、特定ワークステーションにハード・ディスク障害の可能性のあることを他のワークステーションに知らせるなど)。IBM SMART Reaction Client は高機能なバックアップおよび復元プログラム、ならびにミラーリング・プログラムを持ち、それらを使用して最大 64 個のフォルダーの内容を別のハード・ディスクに動的に“ミラーリング”することができます。ソース・ファイルが保管されると、ミラー・ファイルは同一データを持つように自動的に更新されます。IBM SMART Reaction Client は、バックアップのスケジューリング、復元、およびミラー処理のためのスケジューラーも内蔵しています。IBM SMART Reaction Manager プログラムを最低 1 台のネットワーク・コンピューター上に導入し、稼働させないと、IBM SMART Reaction Client をクライアント・ワークステーションに導入することはできません。

Intel LANDesk Client Manager 3.1 は、IBM System Management Tools のすべての構成要素にアクセスするためのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを提供するプログラムです。LANDesk Client Manager は、PCヘルス・メーターおよび潜在的な問題に関する警報を発するためのメカニズムを含む、分かりやすい診断ツールも提供します。このアプリケーションは自動的にメモリーおよびその他のハードウェアを調べて障害の可能性を検出し、変更管理および復元について定期的に重要構成ファイルの状態を生成します。LANDesk Client Manager を使用してユーザー自身のコンピューターを管理することも、あるいは Intel LANDesk Client Manager Administrator とともに使用してネットワーク管理者がユーザーのコンピューターをリモート側で監視できるようにすることができます。

## IBM System Management Tools の導入

以下のようにして IBM System Management Tools を導入します。

1. Welcome to Windows NT (Windows NT へようこそ) ウィンドウがオープンしていたら、クローズします。
2. **IBM** ウェルカム・センター・アイコンをダブル・クリックします。
3. IBM ウェルカム・センター・ウィンドウで、始めにをクリックします。
4. 追加ソフトウェアの導入 セクションのアプリケーション導入プログラムの起動までスクロールしてクリックします。
5. アプリケーション導入プログラムのメニューが表示されたら、アプリケーションの導入ボタンをクリックします。導入の選択 ウィンドウで、**IBM System Management Tools** をクリックして強調表示します。
6. 追加ボタンをクリックしてタイトルを右側のパネルに移動します。その後 導入ボタンをクリックします。

導入後に IBM System Management Tools にアクセスするには以下のようになります。

1. Windows スタート・ボタンをクリックします。
2. プログラム、**IBM System Management Tools** の順に選択していき、希望する選択肢をクリックします。

オンライン・ヘルプが必要なときは、Windows スタート・ボタンをクリックします。次に プログラム、**IBM System Management Tools** を選択します。画面の右側にあるプルダウン・メニューは、DMI MIF Browser メニュー項目に内蔵されたサポート資料を含みます。

Microsoft Windows NT Workstation 3.51 または 4.0、Microsoft Windows 95 または 98、あるいは OS/2 を導入 (または再導入) する場合は、ソフトウェアまたはデバイス・ドライバが必要となる場合があります。ハードウェア固有のサポート・ソフトウェアが、サポート CD に収録されています。

いずれのオペレーティング・システムを導入する場合でも、事前に必ず最新のフィックス・パックや CSD など入手してください。これら入手するには、オペレーティング・システムの製造元に問い合わせるか、アクセスできれば製造元の Web サイトをチェックしてください。

オペレーティング・システムを導入するには、そのオペレーティング・システムに付属の資料に記載されている手順と、フィックス・パックや CSD など (ある場合) に従ってください。その後、27ページの第6章、『サポート CD の使用方法』に記載されている手順に従って、サポート・ソフトウェアを導入します。

Windows NT ワークステーション 4.0 の再インストールに関する重要情報は、25ページの第5章、『Windows NT の再導入』にあります。





問題が生じ、本製品に付属の Windows NT オペレーティング・システムを再インストールしなければならない場合には、本章の説明をお読みください。

### Windows NT 4.0 CD について

#### 注意

Windows NT CD に含まれているソフトウェアは、Windows NT Workstation 4.0 が事前に導入されて出荷された IBM コンピューターに Windows NT Workstation 4.0 を再導入する場合にのみ使用することができます。

Windows NT CD は、ハード・ディスク障害あるいは Windows NT ファイルの損傷時に、Windows NT を再インストールすることができるように本製品とともに提供されています。この CD は、Windows NT セットアップ・ブート・ディスクととも使用する必要があります。

### Windows NT 4.0 の再導入に関する重要情報

注: バックアップ用の Windows NT 4.0 CD を使用して初期導入済の Windows NT 4.0 相当のバージョンにするには、Windows NT 4.0 を再導入した後に、サービス・パック 3 を導入してください。さらに、インターネット・エクスプローラ 3.02 を使用する場合は、Microsoft 社のワールド・ワイド・ウェブ (<http://www.microsoft.com/japan>) のテクニカル・サポートのページから IE3.02 の J030470 の問題に対応したモジュールをダウンロードして、ご使用ください。この修正モジュールを導入しない場合は IBM ウェルカム・センターが正常に動作しません。

問題が発生し、Windows NT を再インストールしなければならない場合は、以下のようにしてください。

1. 最初に Windows NT をインストールします。1 枚目の Windows NT セットアップ・ブート・ディスクをドライブ A に挿入し、Windows NT CD を CD-ROM ドライブに挿入します。コンピューターの電源を入れるか、再起動し、画面に現れる指示に従います。

2. 以下のアップデートを導入します。

- Windows NT ワークステーション 4.0 サービス・パック 3

サービス・パック 3 の CD は同梱されています。

- Internet Explorer 3.02、あるいはそれ以降のバージョン

これらのアップデートは、ワールド・ワイド・ウェブの

<http://www.pc.ibm.com/us/news/msinfo.html> から入手することができます。このウェブのアドレスにアクセスする方法の1つは、Windows NT Internet Explorer ツールバーの「お気に入り」から **Microsoft Technical Support** を選択します。

Windows NT を再インストールした後、サポート CD を使用して、必要に応じてアプリケーションおよびデバイス・ドライバーをインストールすることができます。詳細については、27ページの第6章、『サポート CD の使用方法』、およびサポート CD にある CD の概要を参照してください。

Windows NT 4.0 の再導入手順について、より詳細な情報が必要な場合は33ページの付録A、『Windows NT 4.0 の詳細導入手順』を参照してください。再導入手順がステップごとに詳細に記載されています。

サポート CD からデバイス・ドライバーやその他のソフトウェアを導入または再導入する場合には、この章の情報を参照してください。

### CD の機能

サポート CD には、各種のオペレーティング・システム環境のためのデバイス・ドライバー、およびその他のサポート・ソフトウェアが含まれています。

#### 重要

サポート CD には、オペレーティング・システムは含まれていません。本 CD を使用する前に、オペレーティング・システムがすでにコンピューターに導入されている必要があります。

この CD を使用して、次のことができます。

- CD から一部のアプリケーションを直接導入する。
- ネットワーク上の PC のハードディスクにサポート CD のイメージを転送し、そのイメージからサポート CD を使用する。
- CD から導入できないソフトウェア製品のディスクットを作成して、ディスクットから製品を導入する。

CD にあるユーティリティー・プログラムには、使いやすいグラフィカル・インターフェースと、ほとんどの製品の自動導入手順が備わっています。またユーティリティー・プログラムには、ヘルプ・システムと、ユーティリティー・プログラムの機能、CD から導入できるソフトウェア製品、およびそれらの製品がサポートする操作環境について説明している総合的な概要も用意されています。

サポート CD に入っている製品は、「IBM プログラムのご使用条件」およびサポート CD 中の「CD-ROM の概要を見る」に含まれている「ライセンス情報」の条件でライセンスを受けています。本冊子の付録Bに記載されているライセンス情報は、初期導入済みのソフトウェア用のものであり、サポート CD 中の「CD-ROM の概要を見る」に記載されているライセンス情報は、該当する CD ソフトウェア用のものです。

## CD の始動

サポート CD は以下のようにして使用します。

1. CD-ROM ドライブに サポート CD を挿入します。
2. CD を始動します。Windows 95、98 または Windows NT ワークステーション 4.0 のデスクトップで、ウェルカム・センターをダブル・クリックし、システムのカスタマイズをクリックして、サポート CD の起動をクリックします。

あるいは

お使いのオペレーティング・システムに応じて、下記の手順で CD を開始します。

- Windows NT Workstation 4.0 または Windows 95、98 の場合: タスクバーにある Windows スタート・ボタンをクリックし、ファイル名を指定して実行をクリックしてから、次のように入力します。

```
e:¥ibmsetup
```

ここで、e: は、CD-ROM ドライブ名です。Enter を押します。

- Windows NT 3.51 の場合: Windows のプログラム・マネージャーのパネルから、メニュー・バーのアイコンをクリックし、ファイル名を指定して実行をクリックしてから、次のように入力します。

```
e:¥ibmsetup
```

ここで、e: は、CD-ROM ドライブ名です。Enter を押します。

- OS/2 の場合: OS/2 コマンド・プロンプトで、次のように入力します。

```
start /win e:¥ibmsetup
```

ここで、e: は、CD-ROM ドライブ名です。Enter を押します。

3. メイン・メニューが表示されたら、希望するオプションを選択して、その後は画面の指示に従います。

プログラムの導入が終わったら、スタート・メニューのプログラム選択項目からプログラムにアクセスできます。ほとんどのプログラムでは、サポート資料がオンライン・ヘルプに組み込まれています。また、オンライン資料が提供されているものもあります。



IBM では、ハードウェア問題および一部のソフトウェア問題を検出するのに使用できる診断プログラムを提供しています。コンピューターについての情報を提供するユーティリティー・プログラムもいくつか含まれています。

注: 問題判別表や自己診断テスト (POST) エラー・メッセージに関する訂正手段などのその他の診断情報は、*ユーザーズ・ガイド* に記載されています。

### Enhanced Diagnostics

*IBM Enhanced Diagnostic* のディスクット・イメージが、サポート CD で提供されています。この診断プログラムは、オペレーティング・システムとは関係なく動作します。Watergate Software の PC-Doctor は、診断とユーティリティーを実行するためのユーザー・インターフェースです。

このプログラムを使用して、本製品のハードウェア (および一部のソフトウェア) 構成要素をテストできます。一般にこのテスト方法は、他の方法が使用できない場合、またはハードウェアに関連すると思われる問題がうまく特定できなかった場合に使用します。

ここでは、以下のための手順を説明します。

- サポート CD から、Enhanced Diagnostic ディスクットを作成する方法。
- ディスクットからプログラムを始動する方法。

*IBM Enhanced Diagnostic* ディスクットを作成するには、次の手順を実行します。

1. サポート CD を始動します。(28ページの『CD の始動』を参照してください)
2. 「ディスクット・ファクトリーの実行」を選択します。
3. 「*IBM Enhanced Diagnostic*」を選択し、「作成」ボタンをクイックします。
4. プロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。
5. ディスクット・ドライブにフォーマット済の 2MB ディスクットを挿入して、Enter を押します。

6. 処理が完了したら、ディスクットを取り出してラベルを貼ります。

Enhanced Diagnostic プログラムを始動するには、次の手順を実行します。

1. Windows NT を終了して、コンピューターの電源を切ります。(手順については、12ページの『本製品の終了方法』を参照してください。)
2. 接続されている装置の電源を切ります。
3. *IBM Enhanced Diagnostic* ディスクットをドライブ A に挿入します。
4. 接続されているすべての装置の電源を入れてから、コンピューターの電源を入れます。
5. 画面の指示に従います。ヘルプを表示するには、F1 を押します。



Windows NT 4.0 を再導入する際の詳細手順が必要な場合は、以下の手順を参照してください。

なお、ネットワークは標準装備 (モデルによる) のイーサネットを使用する場合は記述しています。

## A. Windows NT 4.0 のインストール

必要なもの：

- Microsoft Windows NT Workstation Setup Disk 1,2,3
- Microsoft Windows NT Workstation CD-ROM Disc 1
- 修復ディスクットに使用する、未使用のディスクット 1 枚

**重要:** 既にハードディスクに必要なデータが入っている場合は、まず、そのファイルをディスクット等に保存します。

---

### ステップ 操作内容

---

001. Setup Disk 1をAドライブに入れ、Power ONします。

---

002. Please insert the disk labeled  
Windows NT Workstation Setup Disk #2

into Drive A:

\* Press ENTER when ready.

のメッセージが出たら、Setup Disk 1を取り出し、代わりに Setup Disk 2を A ドライブに入れ、Enter キーを押します。

---

003. 「セットアップへようこそ」という、日本語で書かれた画面が表示されます。ここでは、

「Windows NT のセットアップを開始するには、Enter キーを押してください。」を選択し、Enter キーを押します。

---

004. 大容量記憶装置の検出を行うか否かの質問がされます。ここでは、「検出を行う」を選択し、Enter キーを押します。

---

---

ステップ 操作内容

---

005. 「次のラベルの付いたディスクをドライブ A: に挿入してください。
- Windows NT Workstation Setup Disk #3 」
- というメッセージが表示されるので、Setup Disk 2 を取り出し、Setup Disk 3 を A ドライブに挿入し、Enter キーを押します。
- 
006. 標準構成では、以下のメッセージが表示されます。
- 「セットアップは、コンピュータに次の大容量記憶装置を検出しました。
- IDE CD-ROM ( ATAPI 1.2)/PCI IDE Controller 」
- ここで、追加デバイスを追加する場合は、「S」キーを押します。一方、追加デバイスを追加しない場合は、Enter キーを押します。(ここでは、追加デバイスを追加しない場合を記載します。)
- 
007. 「次のラベルの付いたコンパクト ディスクをCD-ROM ドライブに挿入してください。
- Windows NT Workstation CD-ROM 」
- というメッセージが表示されると、Windows NT Workstation Disc 1 を CD-ROM ドライブに挿入し、Enter キーを押します。
- 
008. Windows NT ライセンス契約書が表示されるので、Page Down キーを使用して読み、同意する場合は、F8 キーを押して先に進みます。
- もし、ここでハードディスク内にWindows NT が見つかった場合は、
- \* アップグレードを行う。
  - \* 新しいコピーをインストールする。
- の二つの選択肢が表示されます。この場合は、
- \* 新しいコピーをインストールする。
- を選択し、N キーを押します。
- 
009. 以下のメッセージが表示された場合は、ご使用のキーボードに相当するキーボードを選択します。
- キーボードの種類を特定するために、以下のいずれかのキーを押してください。
- 半角/全角 キー : 106 日本語キーボードの場合  
スペース・キー : 101 英語キーボードの場合  
'S' キー : その他のキーボードの場合
-

---

ステップ 操作内容

---

010. キーボードの確認の画面が現れた場合 (y/n) は、確認の上、y をタイプします。

---

011. NT がセットアップを行う上でハードウェアの構成の確認の画面が表示される場合、使用の構成と一致しているかを確認し、Enter キーを押します。

表示の例

「コンピュータには、次のハードウェアとソフトウェアがあります。

コンピュータ : 標準 PC

ディスプレイ : 自動検出

キーボード : 106 日本語キーボード

キーボード・レイアウト : 日本語 (MS-IME97)

ポインティング・デバイス : Microsoft マウスポートマウス (BallPoint を含む)

変更なし : 上記の一覧は使用中のコンピュータと一致します。

一覧の項目を変更したい場合は、上向き方向キーと下向き方向キーを使って変更する項目を選択し、Enter キーを押します。すると、その項目で選択できる内容が表示されます。

一覧の項目がすべて正しい場合は、「上記の一覧は使用中のコンピュータと一致します。」を選択し、Enter キーを押します。」

---

012. NT をインストールするパーティションを選択するように指示が表示されません。インストールするパーティションを選び (選択したパーティションは反転表示されます)、Enter キーを押します。

---

013. ファイルシステム (FAT、NTFS) を選択するように指示がされるので、選択肢を反転表示にし、Enter キーを押します。

ここでは、FAT を選択する場合を例にとり、

「FAT ファイル システムを使用してパーティションをフォーマット」を選びます。

\* 既に HDD に書かれているファイルの影響が出ないようにするためにパーティションをフォーマットすることをお勧めします。

---

014. ドライブをフォーマットする趣旨のメッセージが表示されます。「F」キーを押して、ドライブのフォーマットを開始します。

---

---

ステップ 操作内容

---

015. フォーマットが開始されます。フォーマットが終了すると、インストールするディレクトリー名を指定するように指示が表示されるので、ディレクトリー名を入力し(例えば、¥WINNT40 など)、Enter キーを押して続行します。

---

016. 「セットアップは、ハードディスクに壊れたデータがあるかどうか検査します。

(中略)

- ハードディスクの詳細な二次検査を実行するには、Enter キーを押してください。」のメッセージが表示されます。

ここでは、詳細な二次検査を実行することを選択し、Enter キーを押します。

これより、CD-ROM からハードディスクへのコピー、及び、初期化が行われます。

---

017. 以下のメッセージが表示されます。メッセージの指示に従ってください。

「ここまでのセットアップは正常に終了しました。

ドライブ A: にフロッピー ディスクが挿入されている場合は取り出してください。

CD-ROM ドライブにコンパクト ディスクが挿入されている場合は、コンパクトディスクも取り出してください。」

Enter キーを押してコンピュータを再起動してください。

コンピュータが再起動すると、セットアップが続行されます。

---

018. 再起動のあと、以下のメッセージが表示されます。

「'Windows NT Workstation CD-ROM' のラベルの付いたコンパクトディスクを CD-ROM ドライブに挿入して「OK」をクリックしてください。(以下省略)」

Windows NT Workstation Disk 1 を CD-ROM ドライブに挿入して「OK」をクリックします。

---

019. 画面にグラフィック調のスクリーンが現れます。画面の指示に従い [ 次へ ] をクリックします。

---

020. セットアップ方法を選択します。今回は標準を選び、[ 次へ ] をクリックします。

---

021. 名前と組織名を入力し、[ 次へ ] をクリックします。

---

ステップ	操作内容
022.	マニュアル「ファーストステップガイド Microsoft Windows NT Workstation」の表紙に書かれている Product ID を入力し、[次へ]をクリックします。
023.	コンピュータ名を入力し、[次へ]をクリックします。
024.	管理者アカウント用のパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。
025.	システム修復ディスクを作成する画面が表示されます。未使用のディスクを A ドライブに挿入し、「はい」を選び、[次へ]をクリックします。
026.	Windows NT コンポーネントの導入に関して、「標準導入」または「選択導入」を選択します。ここでは「標準導入」を選択し、[次へ]をクリックします。
027.	Windows NT ネットワークのインストール手順に進みます。[次へ]をクリックします。
028.	ネットワークに接続するか、しないかを指定します。ここでは、「ネットワークに接続する」場合を例にとり、[次へ]をクリックします。
029.	アダプタの検索を開始するため、「検索開始」のボタンをクリックします。
030.	検出されたアダプタ名が反転表示されたまま、[次へ]をクリックします。 * イーサネットのドライバーは、後述の手順で、サポート CD から正しいドライバーを再導入します。
031.	ネットワークプロトコルを選択し、[次へ]をクリックします。
032.	[次へ]をクリックし、ネットワーク・コンポーネントの導入を開始します。
033.	プロトコルとして、TCP/IP を選んだ場合は、ネットワーク管理者等から指定されている TCP/IP のアドレス等を設定します。 * BIOS の設定によっては、途中で「PCI 設定エラーの検出」が表示されることがあります。その場合は、「OK」を押してください。
034.	Adapter Properties (557 Set) のウィンドウが表示されますので「OK」を押します。
035.	続いて DHCP を使用するかどうか、たずねられたら、「Y」または「N」を押します。
036.	ワークグループ名を指定し、[次へ]をクリックします。

ステップ	操作内容
037.	「完了」のボタンをクリックします。
038.	「日付と時刻のプロパティ」の画面が表示されます。日付、時刻、タイムゾーンが正しくない場合は正しい値を入力してください。そして「閉じる」をクリックします。
039.	検出されたディスプレイとして VGA 互換ディスプレイ アダプタが検出された場合、一旦ここでは、「OK」をクリックします。 * ディスプレイ ドライバの導入は、別途後述の手順で行います。
040.	NT の導入が開始され、そののち、修復ディスクの書き込みが開始されるメッセージが表示されます。ドライブ A には既にディスクが入っていますから、「OK」をクリックします。
041.	NT 4.0 が正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されたら、ディスクと CD-ROM をそれぞれドライブから取り出し、再起動のアイコンをクリックします。
042.	「Windows NT へようこそ」が表示されたら、「閉じる」をクリックします。

## B. ドライバーのインストール

### B - 1. バスマスター IDE のドライバーの導入

必要なもの：

- サポート CD

\* バスマスター IDE のドライバーは必要に応じて導入してください。

ステップ	操作内容
043.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
044.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
045.	d:\yibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)

ステップ	操作内容
046.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
047.	「Bus Mating IDE/SMART ドライバー for Windows NT 4.0」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
048.	「導入」のアイコンをクリックし、サポート CD からの直接導入する場合を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
049.	表示された Readme をクローズします。また、続いて「メニューに戻る (M)」->「終了 (X)」をクリックし、「サポート CD」を閉じます。  "配布ファイルのコピー元" に次のように入力して「OK」をクリックします。d:\\$WINNT¥\$BUSMNT4 (ただし d: は CD-ROM ドライブ名です。)
050.	「スタート」->「設定 (S)」->「コントロール パネル (C)」とクリックします。
051.	「SCSI アダプター」アイコンをダブル・クリックします。
052.	ドライバ タブをクリックし、標準で導入されている「IDE CD-ROM(ATAPI.2)/ Dual-Channel PCI IDE Controller」の「削除」をクリックします。
053.	「はい」をクリックします。
054.	「SCSI アダプター」ダイアログボックスで、新しいドライバーを追加するために「追加」ボタンをクリックします。
055.	「ドライバのインストール」ダイアログボックスが表示されるので、「ディスク使用」ボタンをクリックします。
056.	「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されるので、"配布ファイルのコピー元" に次のように入力して「OK」をクリックします。d:\\$WINNT¥\$BUSMNT4 (ただし d: は CD-ROM ドライブ名です。)
057.	「Intel PIIX PCI Bus Master IDE Controller」を選んで「OK」をクリックします。
058.	変更が有効になるようにシステムを再起動するため「はい」をクリックします。

---

ステップ 操作内容

---

059. 再起動されたあと、「Windows NT へようこそ」が表示されたら、「閉じる」をクリックします。

★このとき、「Windows NT を次に起動するときも、このダイアログを表示する」のチェックマークを外しておく、この画面は表示されなくなります。

---

## B - 2. IBM 100/10 EtherJet PCI アダプター・ドライバーの導入

必要なもの：

- サポート CD
- 未使用のディスク 2 枚 (IBM 100/10 EtherJet PCI アダプターのドライバー用)

\* "IBM 100/10 EtherJet PCI アダプター" のドライバーは、必要に応じて導入してください。

---

ステップ 操作内容

---

060. 画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。

061. CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。

062. d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)

063. 「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。

064. 「IBM 100/10 EtherJet PCI アダプター・ドライバー」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。

065. 「導入」のアイコンをクリックします。

066. ディスク・ファクトリーを使用してディスクを作成します。「はい」をクリックします。

067. 2MB (HD) の未使用ディスクを 2 枚用意し、「はい」をクリックします。

---



ステップ	操作内容
068.	ディスクettenをドライブに挿入し、Enter キーを押します。
069.	「はい」をクリックし、ディスクettenの内容が消去されることに同意します。
070.	書き込みが終了したら、マウスを動かし、ドライブからディスクettenを取り出し、指定されたラベルを付け、「OK」をクリックします。
071.	2 枚目のディスクettenをドライブに挿入し、Enter キーを押します。
072.	「はい」をクリックし、ディスクettenの内容が消去されることに同意します。
073.	書き込みが終了したら、マウスを動かし、ドライブからディスクettenを取り出し、指定されたラベルを付け、「OK」をクリックします。
074.	「OK」をクリックします。
075.	「メニューに戻る」をクリックします。
076.	「終了」をクリックします。
077.	作成した「IBM 100/10 EtherJet PCI アダプター・ドライバーその 1」のディスクettenをドライブ A に挿入します。
078.	ネットワーク・ケーブル (別売オプション) を、アダプターとハブに正しく接続します。そして以下の手順でデバイス・ドライバーを導入します。
079.	「スタート」->「設定 (S)」->「コントロール パネル (C)」とクリックします。
080.	「ネットワーク」アイコンをダブル・クリックします。
081.	「アダプター」タブを選択 (クリック) します。
082.	現在導入されているアダプターを削除します。「削除」をクリックします。
083.	「続行しますか？」に対し、「はい」をクリックします。
084.	追加を選択 (クリック) し、「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスで「ディスク使用」アイコンを選択します。
085.	アダプターの「デバイス・ドライバー・ディスクetten その 1」がドライブに入っているを確認して、「OK」をクリックします。
086.	「IBM 100/10 EtherJet PCI Adapter」を選択して「OK」を選択 (クリック) します。

ステップ	操作内容
087.	導入が終了したら、「閉じる」をクリックします。
088.	例えば TCP/IP のプロトコルを使用する場合は、ここで IP アドレスを入力します。
089.	ドライブ A からディスクレットを、CD-ROM ドライブからサポート CD をそれぞれ取り出します。
090.	変更が有効になるようにシステムを再起動するため「はい」をクリックします。

### B - 3. Cirrus Logic CrystalClear Audio ドライバーの導入

必要なもの：

- サポート CD
- Cirrus Logic CrystalClear Audio 用ディスクレットに使用する、未使用のディスクレット一枚

ステップ	操作内容
091.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
092.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
093.	d:\yibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
094.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
095.	「Cirrus Logic CrystalClear Audio for Windows NT」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
096.	「導入」のアイコンをクリックします。
097.	ディスクレット・ファクトリーを使用してディスクレットを作成します。「はい」をクリックします。
098.	2MB(HD) の未使用のディスクレットを用意し、「はい」をクリックします。
099.	ディスクレットをドライブに挿入し、Enter キーを押します。

ステップ	操作内容
100.	「はい」をクリックし、ディスクの内容が消去されることに同意します。
101.	書き込みが終了すると、マウスを動かし、ドライブからディスクを取り出し、指定されたラベルを付け、「OK」をクリックします。
102.	「OK」をクリックします。
103.	「メニューに戻る」をクリックします。
104.	「終了」をクリックします。
105.	ただ今作成された「Cirrus Logic CrystalClear Audio for Windows NT」のディスクをドライブAに挿入します。
106.	「スタート」->「設定 (S)」->「コントロール パネル (C)」とクリックします。
107.	「マルチメディア」アイコンをダブル・クリックします。
108.	「デバイス」タブをクリックします。
109.	「追加」のアイコンをクリックします。
110.	「一覧にない、または更新されたドライバ」を選択し、「OK」をクリックします。
111.	ドライバのインストールの画面で「A:」と入力し、「OK」をクリックします。
112.	「CrystalWare Audio Driver」が表示されたら、「OK」をクリックします。
113.	もし、既にシステムに導入されていた場合でも、新しいドライバをインストールする方を選択します。
114.	「OK」をクリックします。
115.	ドライブ A からディスクを取り出した後、「再起動する (R)」をクリックして、システムを再起動させます。

## B - 4. Logitech ScrollPoint Mouse のドライバーの導入

必要なもの :

- サポート CD

ステップ	操作内容
116.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
117.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
118.	d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
119.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
120.	「ScrollPoint Mouse デバイスドライバー for Windows NT 4.0」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
121.	「導入」のアイコンをクリックします。
122.	「OK」をクリックします。
123.	「高速セットアップ」のアイコンをクリックします。
124.	「終了」をクリックします。
125.	「OK」をクリックし、続いて、「メニューに戻る (M)」->「終了 (X)」をクリックします。
126.	画面左下の「スタート」->「シャットダウン (U)」をクリックします。
127.	「コンピュータを再起動する (R)」を選択し、「はい (Y)」をクリックし、システムを再起動させます。

## C. Windows NT Service Pack 3 のインストール

必要なもの : Microsoft Windows NT Service Pack 3 CD-ROM

---

### ステップ 操作内容

---

128. NT を起動させ、CD-ROM ドライブに「Service Pack 3 CD-ROM」を挿入します。
  129. インターネット エクスプローラが自動的に起動され、Windows NT Service Pack 3 の画面が表示されます。
  130. Windows NT Service Pack の項に進み、「リリース ノート」をクリックします。ファイルの処理方法は、「開く」を選択します。  
  
日本語版 Service Pack 3 Readme ファイルがメモ帳にて開かれるので、一読し、クローズします。
  131. 「Service Pack のインストール」をクリックします。ファイルの処理方法は、「開く」を選択します。
  132. 「次へ (N)」をクリックします。
  133. 使用許諾を読み、契約に同意する場合、「はい」をクリックします。
  134. 「次へ (N)」をクリックします。
  135. ここでは、「アンインストール用のディレクトリを作成しない」を選び、「次へ (N)」をクリックします。
  136. 「完了」をクリックします。
  137. OEM によってインストールされたファイルが検出された場合、これを Service Pack のバージョンに上書きするか、と聞かれた場合は、「いいえ (N)」を選択します。
  138. 「Service Pack 3 の CD-ROM」を CD-ROM ドライブから取り出し、「OK」をクリックし、再起動します。
  139. 再起動後、ドライブAに修復ディスクを挿入し、「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックし、rdisk.exe /s とタイプします。これにより修復ディスクを更新します。
  140. 作成しますか ? と聞かれたら、「はい」をクリックします。
  141. 「OK」をクリックします。
-

---

ステップ 操作内容

---

142. 完了したら、「OK」をクリックし、ディスクを取り出します。
- 

## D. ビデオのドライバーの導入

必要なもの： サポート CD

注意： このビデオのドライバー (S3 Trio3D) は "Windows NT Service Pack3" が既にインストールされていないと、ドライバは正しく動作せず、Windows NT はデフォルトの VGA でしか使えません。

---

ステップ 操作内容

---

143. 「スタート」->「シャットダウン」をクリックし、「コンピュータを再起動する (R)」を選択し、「はい (Y)」をクリックします。
144. Windows NT Workstation Version 4.00 [ VGA mode ] を選択して Windows NT を起動させます。
145. 画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
146. CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
147. d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。  
(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
148. 「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
149. 「S3 Trio3D Graphics デバイス・ドライバー for Windows NT 4」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
150. 「導入」のアイコンをクリックします。
151. ここではサポート CD から直接導入する場合を選択し「OK」ボタンをクリックします。
152. メモ帳が開き、注意事項に目を通し、クローズします。[スタート]メニューの[設定]をポイントして、[コントロールパネル]をクリックします。  
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
-

ステップ	操作内容
153.	[画面] アイコンをダブル・クリックします。[画面のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
154.	[ディスプレイの設定] タブをクリックします。
155.	[ディスプレイの種類] をクリックします。[ディスプレイの種類] ダイアログボックスが表示されます。
156.	[変更] をクリックします。[ディスプレイの変更] ダイアログボックスが表示されます。
157.	[ディスク使用] をクリックします。[フロッピーディスクからインストール] ダイアログボックスが表示されます。
158.	“配布ファイルのコピー元” に次のように入力して、「OK」をクリックします。d:\winnt\stri3nt4 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
159.	ディスプレイから「S3 Incorporated Trio3D Display Driver Version 3.26.26」を選択して、「OK」をクリックします。
160.	"サードパーティドライバをインストールしようとしています..." のメッセージが表示されるので、「はい」を選択します。
161.	「ドライバーが正常にインストールされた」と表示されたら、「OK」をクリックします。
162.	「ディスプレイの種類」の「閉じる」をクリックします。
163.	「画面のプロパティ」の「閉じる」をクリックします。
164.	「再起動しますか？」と表示されるので、CD-ROM ドライブより、サポート CD を取り出し、「はい」をクリックします。
165.	「画面のプロパティ」の「ディスプレイの設定」にて希望の解像度、色数、リフレッシュ・レート等を設定し、「テスト」をクリックします。
166.	「OK」をクリックし、約 5 秒間待ちます。
167.	テストビットマップが正しく表示された場合は、「はい」をクリックします。
168.	「OK」をクリックします。これで解像度に変更されました。

## E. Windows NT 4.0 Service Pack 3 以降に修正されたモジュールのダウンロード

---

### ステップ 操作内容

---

169. Service Pack 3 以降に修正されたモジュールは、以下のホームページから入手可能です。お客様の使用環境において必要なモジュールは、このホームページから入手してください。

<http://www.microsoft.com/japan/products/ntupdate/NT4SP3/postsp3.htm>

なお、「IBM ユーティリティ for Windows 95/NT 4.0」を導入する場合は、

J030470「Java アプレットが原因で IE 3.02 (SP3 インストール後) が応答を中止する (98/01/23)」のモジュールを適用する必要があります。

---

以上で、アプリケーションを除き、Windows NT 4.0 が再導入されました。これ以降はアプリケーションのインストールとなります。

## F. 同梱アプリケーションのインストール

必要なもの：サポート CD

システムに同梱されているアプリケーションの導入はサポート CD を使って行います。

---

### ステップ 操作内容

---

170. 画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
- 
171. CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
- 
172. d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
- 
173. 「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
- 
174. 導入するアプリケーションを選び、「追加」のアイコンをクリックします
-



---

ステップ 操作内容

---

175. 「導入」のアイコンをクリックします。後は、画面の指示に従ってください。
-



この冊子に記載のライセンス情報は、「IBM プログラムのご使用条件」により使用許諾される IBM 製および他社製の「プログラム」に適用されるものです。また、IBM が、この PC とともに提供するプログラムには、独自の使用条件を有するものもあります。これらのプログラムは、別段の定めがある場合を除き、特定物として現存する状態で提供され、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証および特定目的適合性の保証を含むすべての明示または黙示の保証は適用されません。

この冊子で参照しているプログラムには、すべての言語版で提供されていないもの、またはすべての国で入手可能とは限らないものもあります。また、プログラムによっては、実際に市販されているバージョンとは異なることがあります。共に出荷されるこの PC 用にカスタマイズされていることがあります。これらの「プログラム」はすべてのマニュアル等の資料を含んでいない場合、または、すべての機能を有していない場合があります。なお、これらのプログラムは、すべて個別に販売されているとは限りません。

### プログラム名

初期導入済プログラム (Windows NT Workstation 4.0 を除く)

### 追加条件

家庭用コンピューター/携帯用コンピューターへの複製および使用：この「プログラム」には適用されません。

プログラムの移転：この「プログラム」は、「プログラム」の調達元 (IBM または IBM 認定再販売者) の書面による同意がある場合に限り、第三者に移転することができます。

使用権の証明：この「プログラム」に対するお客様の使用権は、所定のライセンス証書により確認されます。IBM または IBM 認定再販売者が提供する将来における「プログラム」の上位移行 (発表された場合) または販売促進用の特別な措置 (提供された場合) 等の資格の確認およびこの「プログラム」に対する使用権の証明として、ライセンス証書を保管するものとします。

このシステムとともに提供された「プログラム」には限定的な技術サポートのみが提供されます。詳細については、システムのマニュアルを参照してください。

## プログラム・サービス

この「プログラム」にはプログラム・サービスは提供されません。この「プログラム」は、特定物として現状のまま提供されます。

## 保証

### 初期導入済プログラム

これらの「プログラム」は、特定物として現存するままの状態を提供され、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証および特定目的適合性の保証を含むすべての明示または黙示の保証は適用されません。

## その他

この「ライセンス情報」にて参照している書類を含め、この「プログラム」に関するいかなる書類も、お客様の参照のために提供されるもので、「ライセンス情報」記載の内容を拡張または変更するものではありません。

## その他の追加条件

以下の条件は、IBM システム（以下「システム」といいます。）とともにディスクともしくは CD-ROM の形で提供、「システム」上に初期導入、CD-ROM、システムもしくはローカル・エリア・ネットワーク（LAN）から IBM 所定のプログラムを使用してディスクに複製したデバイス・ドライバー、ユーティリティー・プログラムおよびフラッシュ BIOSコード（以下あわせて「システム・プログラム」といいます。）に適用されます。「システム」とは、IBM 機械本体、機構、形式変更、オプションおよびその組み合わせを意味します。

お客様が「システム」の正当な占有者である場合、または「システム」の保守の目的で「プログラム」を取得された場合、IBM またはその直接もしくは間接の子会社は、お客様に対し、「システム」と共にもしくはその一部として「プログラム」を使用する権利、および「プログラム」を回復または保守のために使用する権利を許諾します。「システム」の正当な占有者に対して「システム」の回復または保守を目的としてのみ「プログラム」の複製物を配布し、導入することができます。ただし、この場合、この使用条件のコピーも合わせて提供するものとします。当該占有者が「プログラム」を使用開始したときには、この使用条件に同意したものとします。

「プログラム」の複製物には、お客様は「プログラム」と同一の著作権表示を必ず行うものとします。



この付録は、IBM 製品の可用性、特許、出願中の特許、および商標の情報の法的な特記事項を記載しています。

### 特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31  
AP事業所  
IBM World Trade Asia Corporation  
Intellectual Property Law & Licensing

### 商標

以下の用語は米国およびその他の国における IBM Corp. の商標です。

Alert on LAN	Netfinity
Global Network	OS/2
HelpCenter	PC 300
IBM	SMART Reaction
IBM Global Network	Wake on LAN

Microsoft、MS-DOS、Windows、および Windows NT は Microsoft Corporation の商標あるいは、登録商標です。

Intel および LANDesk は Intel Corporation の登録商標です。

その他の会社名、製品名およびサービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。







Printed in Japan

1998年9月

日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-6578-00

**Artwork Definitions**

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
COV	D4BE7SET	i	i

**Grid Definitions**

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
PROC	D4BE7SET		
		i	
HAFPROC	D4BE7SET		
		i	

**Table Definitions**

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
FIG	D4BE7SET		
		i	

**Headings**

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
ABOUT	D4BE7PRF	v	本書について
CH1	D4BE7CH1	1	第1章, ソフトウェアの概説
			v
RTISL	D4BE7CH1	2	すぐに導入できるソフトウェア
			10
CH2	D4BE7CH2	5	第2章, 始動
			v, 1
START	D4BE7CH2	5	本製品の初めての始動
RWS	D4BE7CH2	6	Windows NT セットアップ・プログラムの実行
DA	D4BE7CH2	7	デスクトップ・アプリケーションの使用方法
WC	D4BE7CH2	9	IBM ウェルカム・センターの使用方法
			7, 9
UWC	D4BE7CH2		

		10	IBM ウェルカム・センターの使用方法
RTCHD	D4BE7CH2	11	アプリケーション導入プログラムの使用方法 3
BOOKS	D4BE7CH2	12	オンライン・ブックの表示
SHUTD	D4BE7CH2	12	本製品の終了方法 32
CH3	D4BE7CH3	15	第3章, システム管理アプリケーション v, 3, 12
ANTIV	D4BE7CH3	15	Norton AntiVirus for IBM
CFS	D4BE7CH3	16	ConfigSafe NT
CC	D4BE7CH3	18	IBM System Management Tools
COMP	D4BE7CH3	19	IBM System Management Tools の構成要素
INCLI	D4BE7CH3	21	IBM System Management Tools の導入
IOS	D4BE7CH4	23	第4章, 他のオペレーティング・システムの導入 v, 3
IRI	D4BE7CH5	25	第5章, Windows NT の再導入 v, 2, 9, 23
RTC	D4BE7CH6	27	第6章, サポート CD の使用方法 v, 3, 11, 15, 23, 26
SCD	D4BE7CH6	28	CD の始動 31
DIA	D4BE7CH7	31	第7章, 診断プログラムの使用方法 v, 2, 15
APC	MOJAV16A	33	付録A, Windows NT 4.0 の詳細導入手順 26
APA	D4BE7APA	51	付録B, ライセンス情報 ii, v, 1, 27
PN	D4BE7APA	51	プログラム名
ATC	D4BE7APA	51	追加条件
PSV	D4BE7APA	52	プログラム・サービス
W	D4BE7APA	52	保証
OD	D4BE7APA	52	その他
APB	D4BE7APB	55	付録C, 特記事項および商標 ii, v

**List Items**

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
DISKS	D4BE7CH1	2	3
EDD	D4BE7CH1	2	3b
FPHD	D4BE7CH2	6	4
			2
WCC1	D4BE7CH2	10	3a
WCC2	D4BE7CH2	10	3b
RTCUC	D4BE7CH2	11	5
IA	D4BE7CH2	11	5a

**Revisions**

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
1	D4BE7SET	i	
2	D4BE7SET	i	

**Spots**

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
RTIS1	D4BE7CH1	2	(no text)
CSR	D4BE7CH1	3	(no text)
			17
RTIS2	D4BE7CH1	4	(no text)
SPACK	D4BE7CH2	8	(no text)
			1
EXPL	D4BE7CH2	8	(no text)
			3, 6
USIP	D4BE7CH2	11	(no text)
AVD	D4BE7CH3	15	(no text)
CSD	D4BE7CH3	17	(no text)

RIWS	D4BE7CH5	26	(no text)
EDNOT	D4BE7APA	51	(no text)

<b>Processing Options</b>
---------------------------

Runtime values:

Document fileid .....	D4BE7BAS SCRIPT
Document type .....	USERDOC
Document style .....	HWPROTO
Profile .....	EDFPRF40
Service Level .....	0028
SCRIPT/VS Release .....	4.0.0
Date .....	98.08.10
Time .....	13:51:35
Device .....	PSA
Number of Passes .....	3
Index .....	YES
SYSVAR G .....	INLINE
SYSVAR X .....	YES

Formatting values used:

Annotation .....	NO
Cross reference listing .....	YES
Cross reference head prefix only .....	NO
Dialog .....	LABEL
Duplex .....	YES
DVCF conditions file .....	(none)
DVCF value 1 .....	(none)
DVCF value 2 .....	(none)
DVCF value 3 .....	(none)
DVCF value 4 .....	(none)
DVCF value 5 .....	(none)
DVCF value 6 .....	(none)
DVCF value 7 .....	(none)
DVCF value 8 .....	(none)
DVCF value 9 .....	(none)
Explode .....	NO
Figure list on new page .....	YES
Figure/table number separation .....	NO
Folio-by-chapter .....	NO
Head 0 body text .....	(none)
Head 1 body text .....	第
Head 1 appendix text .....	付録
Hyphenation .....	NO
Justification .....	NO
Language .....	JAPA
Keyboard .....	395
Layout .....	OFF
Leader dots .....	YES
Master index .....	(none)
Partial TOC (maximum level) .....	(none)
Partial TOC (new page after) .....	PAGE

Print example id's ..... NO  
Print cross reference page numbers ..... YES  
Process value ..... (none)  
Punctuation move characters ..... (none)  
Read cross-reference file ..... (none)  
Running heading/footering rule ..... NONE  
Show index entries ..... NO  
Table of Contents (maximum level) ..... 3  
Table list on new page ..... YES  
Title page (draft) alignment ..... RIGHT  
Write cross-reference file ..... (none)

<b>Imbed Trace</b>
--------------------

Page 0	D4BE7SET
Page i	D4BECOPY
Page iv	D4BE7PRF
Page vi	D4BE7CH1
Page 4	D4BE7CH2
Page 13	D4BE7CH3
Page 21	D4BE7CH4
Page 23	D4BE7CH5
Page 26	D4BE7CH6
Page 28	D4BE7CH7
Page 31	NIAGAP8B
Page 32	MOJAV16A
Page 49	D4BE7APA
Page 52	D4BE7APB
Page 55	E1D9IBMT
Page 56	E1D9GENT
Page 58	D4BE7DTE